

古代発掘物語全集

黄金の国となぞの文字

江上波夫・泉 靖一 監修



著者／たかしよいち 解説／増田精一

江上波夫・泉 靖一 監修

古代発掘物語全集

3

黄金の国となぞの文字

著者／たかし よいち

解説／増 田 精 一



国 土 社

たかし よいち

黄金の国となぞの文字

国土社 1969

222p 22cm (古代発掘物語全集 3)

基本カード記載例



黄金の国となぞの文字

<検印廃止>

古代発掘物語全集 3

1968年 4 月25日 初版発行

1969年 1 月20日 再版発行

定 価/500円

著 者/たかし よいち

発行者/長宗泰造

印刷所/株式会社厚德社

発行所/株式会社国土社

東京都文京区目白台1の17の6 〒112

電話 (943) 3721(代表)

振替 東京 90631

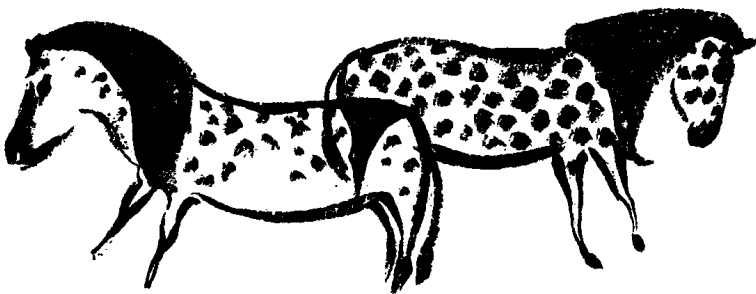
乱丁・落丁の本はおとりかえいたします。

みなさんへ

なん千年、なん万年という大むかしには、わたしたち人間の祖先^{そせん}は、いったいどんな生活^{せいかつ}をしていたのだろう——それは、だれしも興味^{きょうみ}をもつことがらです。

そうした大むかしのことをしらべるのが考古学^{こうこくがく}です。考古学者^{こうこくがくしや}のしごととは、ほとんどが人里^{ひしさと}はなれた不便^{ふべん}なところで、毎日^{まいにち}毎日^{まいにち}土ほりにあけくれる、とてもつらい生活^{せいかつ}です。

このような考古学者^{こうこくがくしや}たちの、とうといしごとをみなさんにしっていただくためにまとめたのが、このシリーズです。



もくじ

みなさんへ 1

ノアの箱舟 6

粘土にかかれた文字の秘密 20

砂漠の丘 28

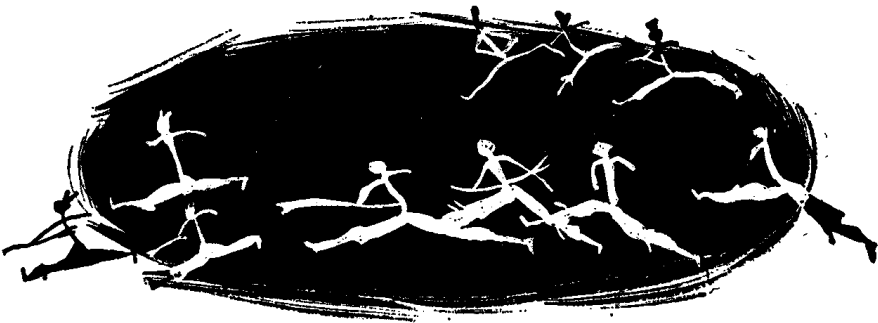
新しい発見 42

岩にきざまれた、なぞの文字 57

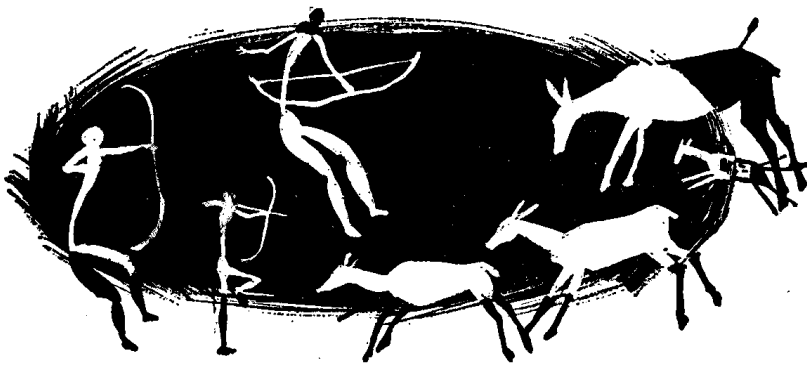
ニムルドの王宮を掘る 75

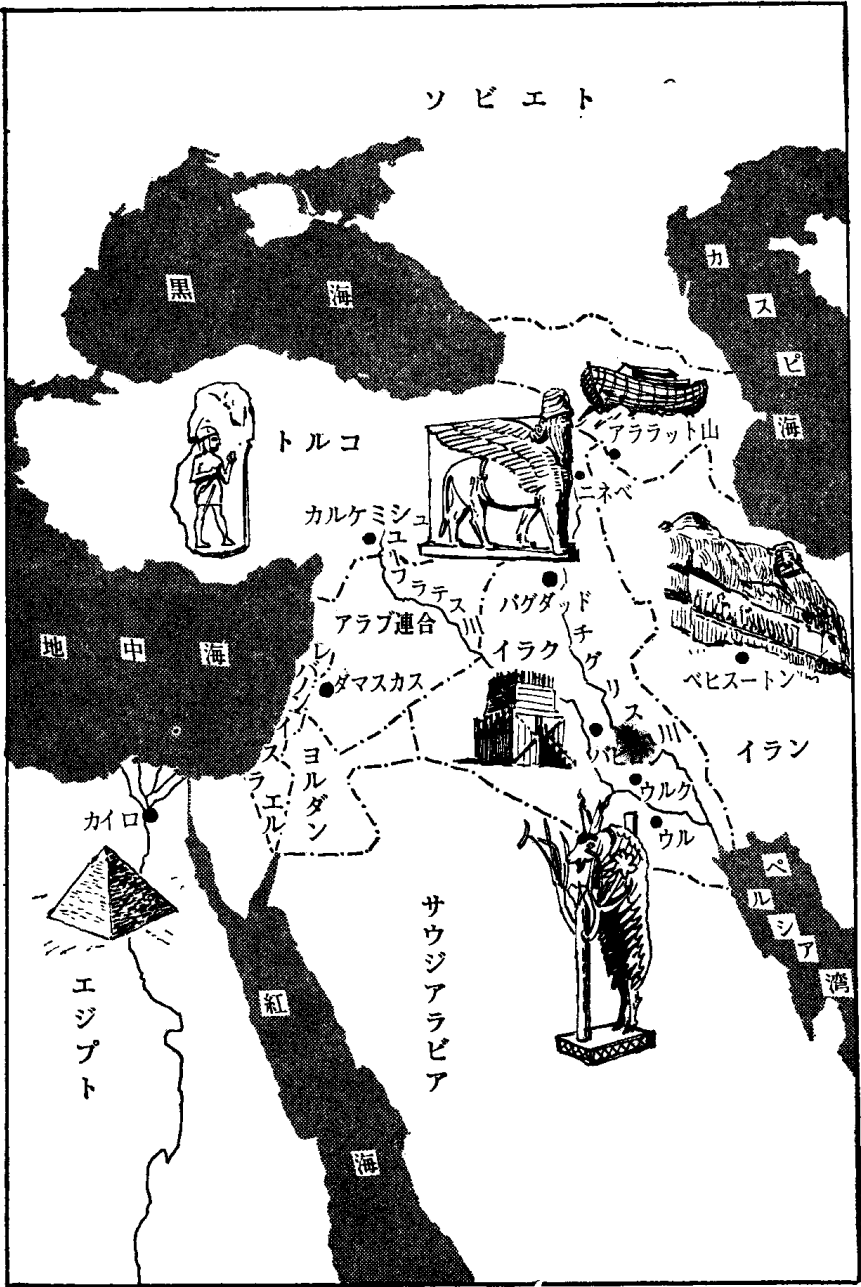
石像、役にのる 93

世界最古の図書館 102



洪水 こうずい の書をもとめて	112
ギルガメシュ物語 ものがたり	127
ウル みやこ の都をさがせ	137
人夫 にんぶ とともに	143
発掘 はつくつ のむずかしさ	152
王 おう の墓 はか と黄金 おうごん の宝 たから	166
最後 さいご のすばらしい発掘 はつくつ	196
文明 ぶんめい の誕生 たんじょう へ増田精一 ますだせいいち	112





黄金の国となぞの文字

おうごん

くに

もじ



ノアの箱舟^{はこぶね}

ぼかぼかと、ここちよい春の日ざしが、えんがわにさしこんでいる日曜日^{にちようび}のこと。
わたしは、机^{つくえ}の上に大きな地図^{ちず}を広げ^{ひろ}たまま、つい、うとうとと、ねむりこけて
いました。

「まあ、おじさんったら、だらしないかつこう！」

その声に、わたしはびっくりして、顔^{かお}をあげました。

いつのまにか、おとなりのうちにいる小学四年生のるり子ちゃんが、わたしのそばに立っていました。

るり子ちゃんは、わたしのだらしないかつこうをみて、大声をあげたのです。



「こら、人のことばかりいうなよ、るり
子ちゃんだってすぐねぞうが悪いんだ
ぞ」

わたしは、そういつてやりました。る
り子ちゃんは、ペロッと舌をだして、わ
たしの広げた地図をふしぎそうにのぞき
こみました。

「おじさん、これ、どこの地図？」

「ああ、これかい、メソポタミアだよ」
わだしがこたええると、るり子ちゃんは、
ふしぎそうな顔をして、

「メソポタミアって、いったいどこ？」
と、ききかえました。

「そうか、四年生じゃ、まだメソポタミア知ってるはずないな。メソポタミアというのはね、世界せかいでもいちばん古い文明ぶんめいのさかえたところで、そこからは、粘土ねんどにかかれた、ふしぎな文字もじや、黄金おうごんに飾かざられた王さまの墓はかなどが、掘りだされたんだよ」

わたしが、そんなことを説明せつめいすると、るり子ちゃんは、すかさず、

「ね、ね、おじさん、そのおはなししてよ。おもしろそうだわ。わたしね、そんなおはなし大スキなのよ」

と、わたしに、おはなしをねだりました。

るり子ちゃんに、そういわれては、わたしも、おはなしをしないわけにはいきません。

そこで、わたしは、とっておきの、すぐくおもしろい発掘はつくつのおはなしをすることにしました。

どうです、みなさんもいっしょに、わたしのおはなしをききませんか。

まず“メソポタミア”という地名ですが、これはギリシア語で“川のなかの土地”という意味です。

そんなことより、みなさんにメソポタミアを知ってもらう、いちばんいい方法は、『聖書』と『アラビアン・ナイト』です。

このふたつをあげれば、だれしも、おぼろげながらその土地をおもいうかべてくれるでしょう。

正確に言えば、メソポタミアという名まえは、紀元前三三〇年ごろのギリシアの英雄、アレクサンダーによって名づけられた、土地の名まえです。

さきほどおはなした“川のなかの土地”というのは、チグリス川とユーフラテス川にはさまれた土地をさしています。

そこは、いまのイラク共和国にあたる場所です。

イラクという名まえも“水辺の”とか“川岸の”という意味で、メソポタミアと

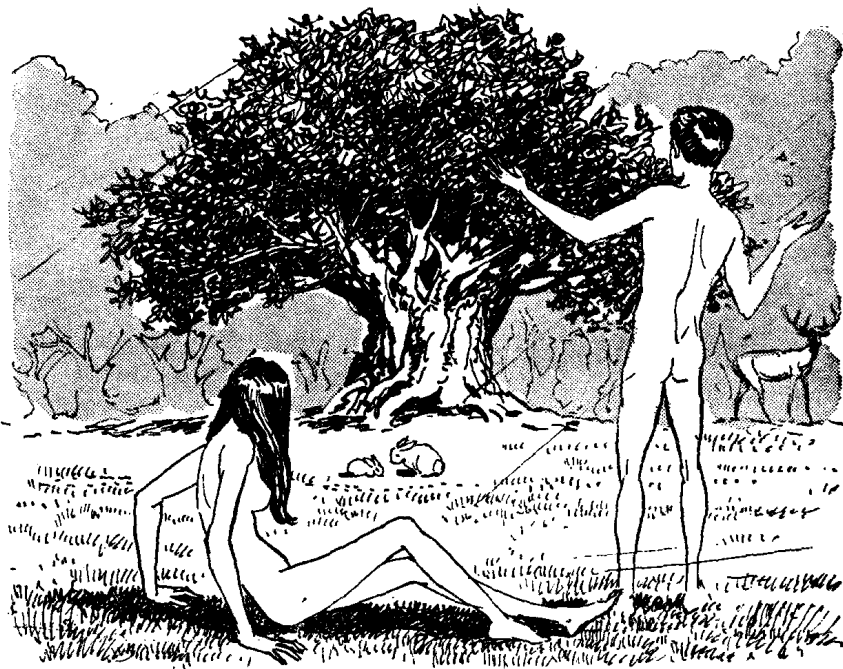
いうことばとおなじ意味です。

地図をみてもわかるように、イラクは、東の方を山脈にさえぎられ、そこが、イランとペルシアとのさかいです。

北の方も山脈で、アルメニアと小アジアのさかいになっています。

西と南とは、草原と砂漠でさえぎられています。

そして、そこを流れるふたつの川にはさまれた土地は、とてもよくこえて、農業にもっとも適し、古くから人間が住みついて、世界でもいち



ばん古い文明をきずきあげました。

キリスト教の『聖書』にも、さかんに登場してきます。

『聖書』のなかでみなさんが知っているおはなしには、どんなのがありますか。

エデンの園での「アダムとイブ」のおはなしは有名ですね。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

神さまは東の方にあるエデンの園に「命の木」と「善と悪を知る木」をおうえになり、そこに人を住まわせました。

そして、その人のあばら骨から、さらにひとりの女をおつくりになりました。

女は、神さまから、食べてはいけない、といわれた木の実をへびにだまされて食べ、そして、じぶんの夫にも食べさせました。

神さまは、たいへんおいかりになり、ふたりをエデンの園から追いだしてしまわれしました。

ふたりの名は、アダムとイブといい、このふたりを祖先にして人間は世界じゅう

に広が^{ひろ}がっていったのです。

これが、『聖書^{せいしよ}』のなかにしるされた、アダムとイブの物語^{ものがたり}のあらましですね。
さて、もうひとつ、これもだれもが知っている『聖書^{せいしよ}』のなかの有名なおはなしに、^{はこぶね}「ノアの箱舟」というのがあります。

そのおはなしは、ざっとつぎのようなものです。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

アダムとイブの九代目^{だいちめ}の子孫^{しそん}は、ノアという人でした。

ノアは心の正しい人で、神^{かみ}さまのいいつけをよく守^{まも}りました。でも、ほかの人たちのなかには、悪^{わる}いかんがえの人や、悪^{わる}い行^{おこ}ないの人もたくさんいました。

ノアには、セム、ハム、ヤベテという三人のむすこがいました。

神^{かみ}さまは、悪^{わる}い人たちをどらんになるたびに、この地上^{にんげん}に人間をつくられたことを、たいへん後悔^{こうかい}されました。

そこで神さまは、ノアにむかってこうおっしゃいました。

「いまや、地上は悪い人間でいっぱいだ。わたしは、いま地上にいる生きものをたやしてしまいたい」

そして、さらに、

「ノアよ、イトスギの木で三階建ての箱舟をつくり、そのなかにへやをつくりなさい。箱舟は長さ一五〇メートル、幅二五メートル、高さ一五メートルにして、窓はひとつにするのです」

とおっしゃいました。

ノアは、びっくりして、なぜそんなことをするのですか、とたずねました。

「わたしは、この地上に大洪水をおこして、すべての生きものをほろぼしてしまつつもりだ。ただ、おまえとおまえの家族、それに、地上にいるすべての生きもののうちから、めすとおすの二ひきずつは、舟にのることをゆるそう」

やがて、神のことばにしたがつて、いろいろな動物たちが、おすとめす二ひきずつ



つつれだってやってきました。

そして、みんないっしょに箱舟^{はこぶね}のなかへはいりました。

ノアとその家族^{かぞく}も、箱舟^{はこぶね}のなかへはいりました。

神^{かみ}さまは外^とから戸^とをしめて、こうおっしゃいました。

「いまから七日^ふたったら、地上に雨を降^ふらせよう。そして、すべての生きものをほろぼしてしまおう」

それから一週間^{しゅうかん}たちました。

はたして、いままで晴^はれわたっていた空が、いちめんまっくらになり、いき